社神日春



社報 春日神社

新 年 号（第二十六号）

発行日　平成29年１月１日

発行者　〒870－0031
大分市勢家町４－６－87
春日神社 宮司 宮 本 隆 之
TEL097－532－5638

題字　東郷平八郎

もくじ

宮司挨拶／祭典ごよみ／春日神社戦災復興五十年　第一部
地域活性事業～火王宮みこし巡行／春日神社研修旅行に参加して／表彰
しめ縄会の活動／ブライダルのご案内／初詣のご案内／厄祓いのご案内

年頭のご挨拶

宮司　宮本隆之

新春を寿ぎ、謹んで聖上の弥栄と国家の隆昌そして皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

さて、昨年は様々なことがありましたが、昭和・平成と長きにわたり天皇陛下を支え御公務に励まれてこられた三笠宮崇仁親王殿下が十月二十七日、皇室では最高齢であります百歳にて薨去遊ばされました。此処に謹んで御霊の御平安をお祈り申し上げます。

さて、全国春日社の御本社である春日大社では第六十次式年造替が執り行われ、十一月六日浄暗の中に遷座祭が、翌七日には奉幣祭が勅使参向のもと斎行されました。早速当社ではその十日後に、総代・敬神婦人会・氏子青年会の合同研修旅行にて同大社への正式参拝を果たし、麗しい御社殿を拝した次第です。加えてこの旅行中、御神忌二千六百年大祭を終えた橿原神宮と、やはり式年遷宮を終えたばかりの上賀茂・下鴨両神社に参拝し大いなる御神徳を頂きました。

来る四月には第七回目となる皇居勤労奉仕団を結成してご奉仕にまいります。今上陛下の御即位御大典の「主基の国」であります大分県民として、これまで定期的に勤労奉仕に参上し、また県内神職として大嘗祭主基地方風俗舞の伝習に勤めてまいりました。昨年、突然に陛下御自身より生前退位の御言葉がありました。陛下のお気持ちを重く受け止め最善の方法を国をあげて模索せねばと強く存じております。

本年は当社戦災復興並びに別表神社加列五十年となることから、今秋に記念行事を計画しており、この一年は例年にも増してより多くの参拝者をお迎えしたく存じます。当社節目の年が氏子崇敬者皆様にとりまして幸多き年となりますことをご祈念申し上げ、年頭にあたりましてのご挨拶とさせて頂きます。

祭典ごよみ

年末から春にかけて執り行われる恒例祭です。

十二月二十三日　天長祭
天皇陛下の誕生日をお祝いする祭典です。巫女舞「豊栄舞」を奉納します。

十二月三十一日　大祓式・除夜祭
一年間を締めくくり、罪穢れを祓って清々しく新年を迎えるための祭典です。

一月　一日　歳旦祭
元旦にあたり、皇室の弥栄と国家の繁栄、氏子崇敬者の幸せをお祈りします。

二月十一日　紀元祭
日本の国の誕生を祝う祭典です。雅楽の伴奏で国歌を斉唱します。

二月十二日　初午祭（摂社　稲荷神社）
本殿の西側に鎮座するお稲荷さんの例祭です。

二月十七日　祈年祭
本来は農耕儀礼に基づくお祭りですが、今日では稲作のみならず殖産工業すべてに亘って、この一年間の恵みを願う祭典です。

四月十二日　春季大祭宵祭
春の大祭のうち、前日祭です。二日間にわたり庄内神楽が奉納されます。

四月十三日　例祭
神社で一番重要な祭典です。神社本庁からの献幣使を迎えて執り行われます。

四月二十九日　昭和祭
昭和天皇の御誕生日にあたり、御聖徳を仰ぐ祭典です。

五月　一日　摂社金比羅社祭
本殿東側に鎮座するこんぴらさんの例祭です。

大東亜戦争 ～市民に愛された社殿の焼失～



戦前の春日神社社殿

一昨年は大東亜戦争終結七十年でありました。ここ大分市も空襲を受け、市街地のほとんどを焼失し、当社も社殿・神宝類はみな悉く戦火に失したということは当紙面上でもお伝えしたところであります。

当社の現社殿が再興されたのは今からちょうど五十年前の昭和四十二年十月のことでした。戦災では氏子も被災者であり、戦後の惨禍を嘗めつくしてきた中から現在みられるような神域の復興にいたるまで、二十二年という歳月を要しました。

今年この節目の年を迎えるにあたり、当時宮仕えをしていた宮本末彦先々代宮司の手記から復興への道のりを辿りたいと考え、数回にわけ当社報上に掲載する運びとなりました。手記「おもいで」（昭和四十二年十月十八日発行）から読み取れる当時の生々しい状況に思いをはせてみたいと思います。



昭和二十年の春頃から米軍機の襲来は日増しに激しくなり、毎日空襲警報が発令され、時には一日数回におよぶ状況であった。

敵機は殆ど足摺岬から豊後水道を経て侵入し、瀬戸内周辺、九州各地、中国へと向かうのが常のようであった。晴天の日は素通りすることが多いが、曇天の日は無差別爆撃を受けた。

当社の境内も二度に亘り爆撃を受けた。その第一回目は直撃弾で榎の大木にあたって爆発した。そのため木片が境内一面に粉々になって散乱していた。幸い高所で爆発したからであろうか建物にはさほどの被害はなかった。第二回目は、二発の時限爆弾が投下された。一発は不発弾で翌日掘り上げられた。他の一発は敵機退散後三十分で爆発し、





天に冲する砂塵を吹きあげ、深さ三メートル、経三十メートル程の大穴ができた。その後、工兵隊により他の箇所に投下された不発弾数発をこの穴に集めて処理していたとき、そのうち一弾の処理を誤り大爆発した。そのため境内の建物、戸、障子は倒れ、窓枠ははずれ、壁板は破れ、屋根瓦は辷り落ちて軒下に一尺乃至一尺五寸位の穴ができる大損害を蒙り、殊に末社金毘羅社の神殿に至っては、無残にも打ち砕かれ、今にも倒れる有様であった。

これを補修するには実に苦慮した。

職人はなく、資材は乏しく、そのうえ空襲が激しいので容易に人手も得られず、八方手を尽くしてどうやら雨漏りだけは防いだが、やれやれと思った途端にかの大空襲である。

時は昭和二十年七月十六日午後十一時頃である。二、三日降り続いた雨は昼過ぎからもちなおして、夜になってから晴れ上がりよい天気になった。空襲が激しくなるにつれ、祭事の他は殆ど国民服にゲートル姿のままで、戸、障子は空け放して寝ていた。突如として「敵機襲来」と言う大声が聞こえたのですぐさま戸外に跳び出すと、東の空には大きな照明弾が煌々と輝き、けたたましい爆音が聞こえた。「来たな」と直感してそのまま御神殿にかけ込む。先ず御本社の御霊代を防空壕に奉遷し、続いて各末社の御霊代を次々に奉遷し奉った。

この間、敵機二機が並行して東から西へ低空に跳び、滝水を流すが如く油を投下し、恰も大工の墨指のごとき固体から点々と燃え上がり、境内一面火の海となったがやがて燃え尽くした。続いて敵機は東から西へ山の手から海の方へと碁盤目型に繰り返し数十機から次々に焼夷弾が投下され、地面に落ちたものは、経四、五尺の落下孔の中で発火し、油とゴムと燐が周辺の樹木や建物に飛び散り炎を発した。樹幹や枝葉に当たって爆発したものは樹上に火花を散らし凄惨の極みであった。

やがて市街の中心部はもちろん東西南北四方八方より火の手があがり、次第に火勢を増して真昼のように明るく、この世の地獄というべく、壮絶悲惨言語に絶する有様であった。私はこの間バケツを下げて何とかして此の危機を脱し、社殿を護りたいと走り回り、懸命に消化に努めたが遂に万事窮した。相前後して御本社及び末社金毘羅社に数発が命中して同時に火を発し手の施しようもない。広い境内には人一人も見当たらないので、応援を求める術もなく、疲労と暑さとそしてゴムと燐と油の燃える煙にむせび、力尽き、大楠の根元に腰をおろし呆然と焼け落ちていく社殿を見つめて、溢れ落ちる涙を止め得なかった。（続く）



地域活性
火王宮
神輿巡行

地元中学生が担ぐ竹町の神輿



氏子区域である竹町の小型神輿は、当社夏季大祭の子供神輿巡行で担がれていましたが、近年の少子化により巡行できなくなって以来、この神輿は長く眠ったままになっていました。しかし今回、兼務社である西大分の「火王宮」では境内整備事業を契機に祭典を盛大に行うこととなり、その神輿を貸し出すこととなりました。

旧國幣小社である柞原八幡宮の仲秋祭「浜の市」期間中が、火王宮の秋祭りでもあります。「浜の市」は大友氏の時代までさかのぼる歴史ある行事で、賀来神社の「賀来の市」とともに、大分市初秋の風物詩であり、その繁栄は広く知られていました。火王宮は「浜の市」が行われる柞原八幡宮のお旅所と並立しており、この地域の賑わいの一助にと、企画されました。

九月十七日土曜、今回学校側のご好意で担ぐことになった大分西中学校二年生約五十人に加えて、近隣の王子神社と春日神社から神輿に欠かせないチキリン囃子の助勢があり、これで巡行行列が整いました。お祓いの神職、続いて生徒たちに担がれた神輿は火王宮を出発して商店街を練り歩きます。「わっしょい、わっしょい」と威勢いいかけ声が響き、沿道には多くの方が参拝にあつまりました。

日本人はよく祭り好きであるといわれますが、祭りが地域の活性化に果たす役割は大きいといえます。次代を担う子供達に地元の歴史や伝統を体験してもらうことで、地域文化の発展につながるものと考えています。

春日神社研修旅行に参加して

～奈良・京都方面～

春日神社　総代　佐藤　浩三



去る十一月十六日～十八日、二泊三日の船中泊を含めた日程で、宮司様をはじめ神社職員の方々に総代敬婦氏青を合わせた計三十名で奈良・京都への研修旅行が行われて、私も参加致しました。

初日は十九時に大分港を出港。フェリー「さんふらわぁ」に乗って旅の始まりです。船内での夕食も皆様と楽しく頂きました。船内は個室でしたが慣れない船舶の為か、余り眠れませんでした。

次の朝、船内で朝食、午前六時に神戸港に着きました。少し寒かったのですが、雲一つない旅行日和です。一同貸切バスに乗りこみ、大阪の町の中心部を高速道路で一路奈良へと走ります。ガイドさんの大阪の町の説明を聞いていたら、あっという間に橿原神宮に着きました。澄み渡る秋空の下、足を踏み進めた広大な境内ときれいに掃き清めた佇まいに大変感動しました。正式参拝をして神宮を後にし、一路次の春日大社へとバスを走らせました。

春日大社には多くの参拝者がいましたが、特に外国人参拝者の多さには驚きました。正式参拝にて間近に接した春日大社の御社殿は朱色がとても鮮やかで、さらに社殿も第四殿まであることなど、とても勉強になりました。次に新装なった国宝館で千年の秘宝と珠の甲冑や刀剣などを見学しました。

昼食ののち、奈良から京都へとバスを走らせ伏見稲荷大社へ向かいました。ここでも外国人の多さにまたびっくりです。まるで初詣のような人波で、参拝するまでにかなり時間がかかりました。

その後は醍醐寺に自由参拝。境内の三宝院では庭園の紅葉が一番の見頃であり、紅葉をバックに皆さんはカメラで写真を撮っていました。ここ三宝院は春には枝垂れ桜の花見客で賑やかだそうです。寺を後にして宿泊所である京都ロイヤルホテルへ。夕食は鴨川近くで京料理を皆さんと頂きました。さらに夕食後、青蓮院門跡のライトアップを見に行きました。光の色で幻想的な庭園でした。



三日目はホテルを八時三十分に出発、車中鴨川を見ながら北へと走り、下鴨神社へと向かいました。参拝を終え次の上賀茂神社では、同様に自由参拝をして帰りかけたとき、同社の宮司様のお計らいで昇殿のご案内を戴き、正式参拝をいたしました。

昼食を終えて京都駅に到着。皆さんはお土産を両手一杯に買っていました。その後新幹線で一路大分へ。大分駅に到着、その場で解散となりました。奈良・京都共に紅葉の一番きれいな時期と重なり、またお天気も申し分なく、各神社の荘厳さともあいまって、とても心を洗われる良い研修旅行となりました。

表彰

本年は大分県神社庁の設立から七十周年となり、去る九月二十九日に記念式典が行われました。この記念表彰の当社関係者は左記の通りです。

また、大分県神社庁大分支部の定例表彰についても付記いたします。

◎大分県神社庁設立七十周年記念表彰

（勤続三十年以上）
宮司　宮本隆之
禰宜　山本龍司
権禰宜　野中公隆
権禰宜　宮本公二

（勤続十五年以上）
総代　太田光則
総代　園田幸吉

（功績特に顕著）
責任役員　長瀬良理

（勤続十年以上）
敬神婦人会　續　道子
敬神婦人会　中西久江
氏子青年会　宮本重樹
氏子青年会　角永喜重

◎大分県神社庁大分支部定例表彰

（永年勤続）
二十年　責任役員　長瀬良理
十年　責任役員　矢野利幸
十年　総代　牧　通

しめ縄会の活動

神社にとってなくてはならないものがしめ縄です。当社においても社殿の大しめ縄を始め、境内の鳥居や御神木などのしめ縄をお正月に向けて、奉製くださっているのは地元勢家町の氏子の方々によって構成されている「春日神社しめ縄会」の皆さんです。作業は稲刈りの終わると同時に、材料となるもちワラの確保から始まり、年末にかけてほぼ毎日作業が行われます。

―しめ縄作りにかける思い―

地元春日神社のために、という気持ちがまず第一。神社のお世話をさせていただくことに何か期待する気持ちをもつわけではない。年々高齢化が進んで、しめ縄に使うワラの確保も難しい状況になってきているが、勢家の氏子はみな神社の事を愛しているので、人手が足りない時は声を掛ければ加勢してくれる。それにこのしめ縄作りは伝統なので絶対に途絶えさせるわけにはいかない。みな高齢で体がきつくなっているが、これからも受け継いでいきたい。新しく迎える年が良い年でありますように、祈って作業を行っています。





続く縁（えにし）、始まる縁（えにし）

「私たちが愛を誓った思い出の『春日神社』
あれから、毎年の初詣、安産祈願、初宮詣り
七五三、成人式…
家族を見守ってくれる、ずっと身近な存在。
子供が生まれ、そして孫が生まれたら私たち
はおじいちゃんと、おばあちゃん。その時も
同じようにここに立っているのかも」

結婚式から始まる縁を大切に。



春日神社　婚礼担当
tel. 097-532-5638 大分市勢家町4丁目6番87号
http://www.kasuganomori.jp/



時代（とき）を刻む舞台
絆を結び新たな門出を

春日神社

初詣のご案内

例年三が日の初詣参拝者は約三十万人を数えます。本年もこの多くの方々をお迎えするべく準備にかかりました。熊手や福笹・干支土鈴など数多くの縁起物がある中、社務所内では神職巫女が手分けをして連日破魔矢の奉製作業を行っています。

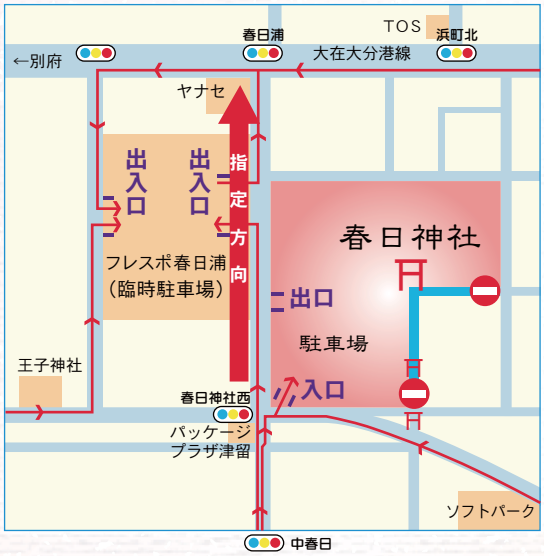
駐車場は境内春日公園を開放するほか、隣接の「フレスポ春日浦」も利用できますが、大晦日から周辺の進入路については交通規制が行われますのでご注意下さい。

◎指定車両以外進入禁止

12月31日午後9時より　1月7日午後3時まで

◎指定方向規制

12月31日午後11時より　1月1日午前5時まで
1月1日午前10時より　1月1日午後7時まで
1月2日午前10時より　1月2日午後7時まで
1月3日午前10時より　1月3日午後7時まで



国道10号線の中春日交差点から春日神社に向った場合、
右車線は春日公園内駐車場へ、
左車線はフレスポ春日浦駐車場への進行となります。

厄祓いのご案内

昔から日本では災難の起こりやすい年廻りとして、ある時期の年齢を「厄年」として忌み慎んできました。厄年というのは、一般的に男性が25歳・42歳・61歳、女性が19歳・33歳・37歳で、特に男性の42歳、女性の33歳は大厄と言われ、その前年を前厄、当年を本厄、翌年を後厄として前後3年間を特に忌み慎む慣わしとなっています。

この厄年の年齢は、社会的にも重要な役割を担う時期にあたります。厄年は現代の生活にあてはまる人生の転回期であり、肉体的にも精神的にも調子を崩しやすい注意すべき時期と言えるでしょう。

謙虚に、感謝の心で神様に手を合わせ、神々のご加護で無事に過ごせるようお祈りください。神社ではいつでも厄祓いのご祈願を奉仕いたしております。

〈平成29年の厄年表〉※年齢は数え年

女子					男子				
37歳	34歳（後厄）	33歳（本厄）	32歳（前厄）	19歳	61歳	43歳（後厄）	42歳（本厄）	41歳（前厄）	25歳
昭和57年生	昭和59年生	昭和60年生	昭和61年生	平成11年生	昭和32年生	昭和50年生	昭和51年生	昭和52年生	平成5年生

※ご祈願料はお一人様五〇〇〇円となります。
※男女の数え61歳は還暦のお祝いの歳にも当たります。
同窓会など団体での申し込みの場合は、社務所までお問い合わせください。